

京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針【概要版】

平成27年3月 川崎市

目次

- 1 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針策定の目的
- 2 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針の位置付け
- 3 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針
 - (1) 京急川崎駅周辺地区に求められている取組
 - (2) 京急川崎駅周辺地区における基本方針と目指すべき都市像
 - (3) 土地利用の考え方
 - (4) 都市基盤の考え方

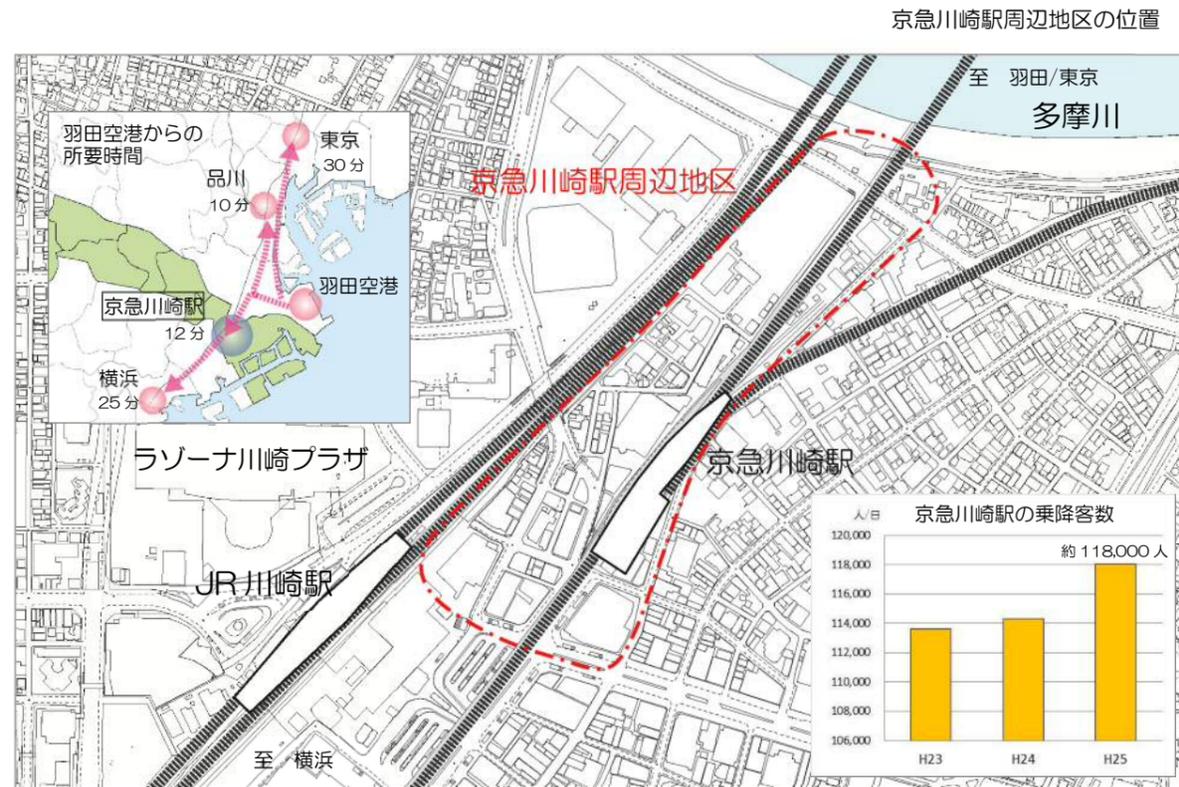
京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針【概要版】

1 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針策定の目的

京急川崎駅周辺地区は、近隣拠点都市に近接し、羽田空港と直結している京急川崎駅を中心とした地区でありながら、道路などの都市基盤が十分でないため、これまで建物の機能更新や土地の高度利用があまり進んで来ませんでした。

一方、羽田空港の国際化以降、京急川崎駅の乗降客が増加し、利用者の多様化が見込まれることから、地区のポテンシャルを活かした川崎の顔づくりが求められています。

そこで、羽田空港との直結などの地理的優位性や環境技術など川崎に培われた資源を活かし、川崎の玄関口にふさわしい商業・業務の集積による賑わいを民間主導で創出するために、「京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針」を策定することとしました。



京急川崎駅周辺地区（昭和30年代）
※京浜急行電鉄提供



京急川崎駅周辺地区（現在）

2 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針の位置付け

○川崎駅周辺地区では、「川崎駅周辺総合整備計画策定協議会」を設置し、2006年4月に「川崎駅周辺総合整備計画」を策定しました。

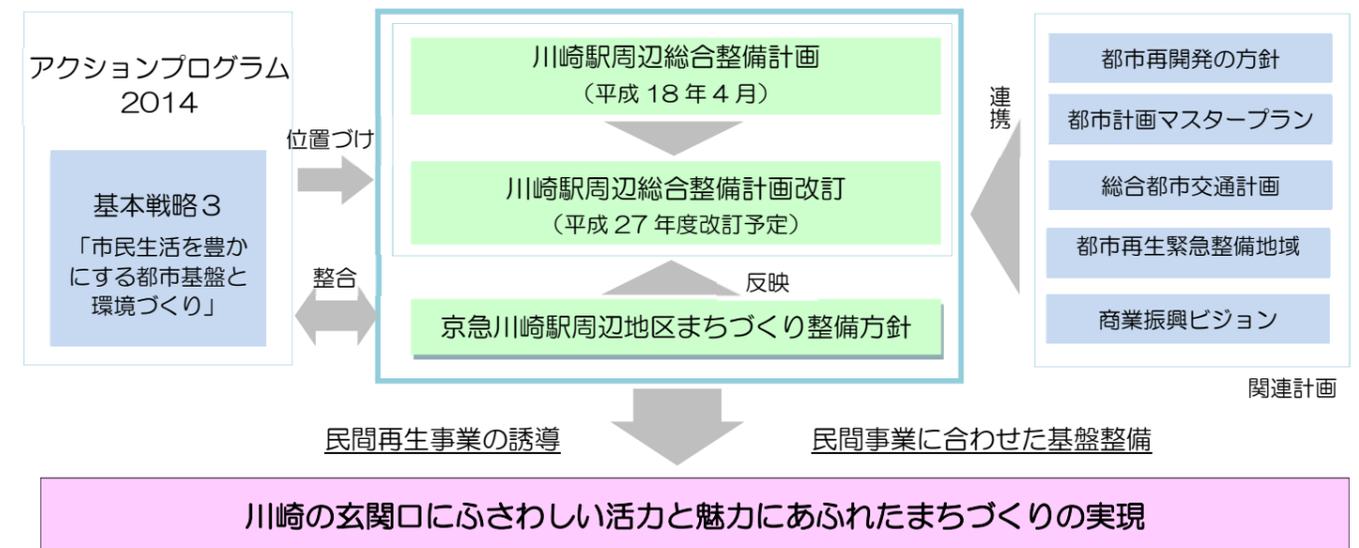
○「川崎駅周辺総合整備計画」では、川崎駅周辺地区の目指すべきまちづくりの方向性を示す5つの基本方針に基づき、これまで川崎駅東口駅前広場の再編整備などが実施されてきており、当地区についても、民間再開発事業の誘導等に取組んできました。

○そのような現状を踏まえ、これまで以上に活力と魅力にあふれたまちづくりを当地区において実現するために「京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針」を定めることとし、川崎駅周辺地区の全体計画である「川崎駅周辺総合整備計画」や関連する上位計画などとの関係を下図のとおり整理します。また、「川崎駅周辺総合整備計画」の改訂の際に反映します。

【川崎駅周辺総合整備計画の基本方針】

- ①広域的拠点整備と地域連携のまちづくり
 - ・都市拠点としての整備と機能強化
 - ・羽田方面を含む臨海部地域との連携強化
- ②地区内を往来しやすいまちづくり
 - ・駅東西の一体化、回遊性強化
 - ・良好な交通結節点整備
- ③人と環境にやさしいまちづくり
 - ・人にやさしい、うるおいある都市空間づくり
 - ・人と環境に優しい交通環境整備
 - ・少子高齢社会に対応した環境づくり
- ④个性的で賑わいのあるまちづくり
 - ・川崎らしい街並み、景観形成
 - ・身近にある賑わいと活力に満ちた商店街の形成
- ⑤市民協働のまちづくり
 - ・エリアマネジメント導入によるまちづくり

〈上位計画と「京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針」の関係〉



京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針【概要版】

3 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針

(1)京急川崎駅周辺地区に求められている取組

京急川崎駅周辺地区が川崎の玄関口として今後も発展し続けるために、当地区で求められている取組について整理します。

土地利用：

- 羽田空港などに近接した地理的優位性を活かした高次都市機能の集積が進んでおらず、川崎の玄関口である拠点駅にふさわしい、まちづくりが求められています。

都市基盤：

- 自動車と歩行者の動線が錯綜している箇所や自転車と歩行者が混在している箇所があり、安全な交通環境整備が求められています。
- JR川崎駅と京急川崎駅の駅間の乗り換え利便性や移動の円滑性の向上や乗換え時間短縮が求められています。
- 歩道のバリアフリー化が進んでおらず、さらに、来街者への案内やサイン計画が不十分なので、誰でも安心して快適に利用できる歩行環境整備への期待が高まっています。

防災：

- 緊急車両が進入できない細街路や老朽化した建物が多く、災害時の建物倒壊などが懸念されます。
- 広域交通結節点として必要な一時滞在施設の整備など、防災機能の強化が求められています。

都市環境：

- 多摩川などの自然環境を活かしたまちづくりや低炭素型のまちづくりの推進が求められています。



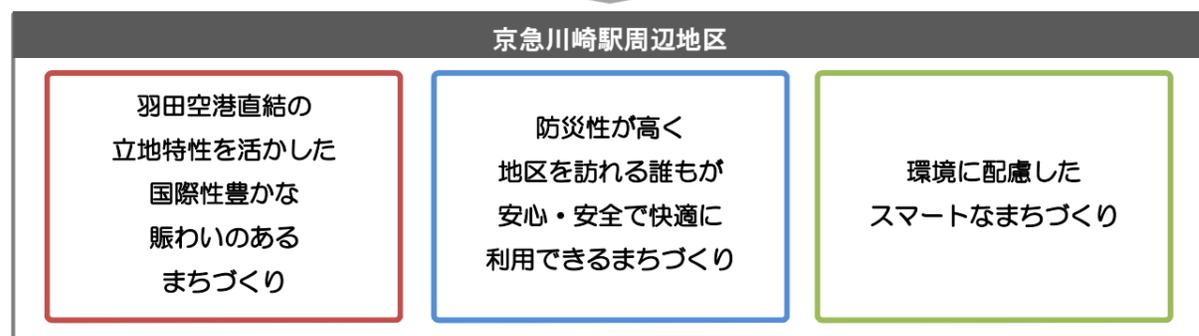
狭小敷地・老朽建物の密集地が残る 車が輻輳する駅前空間 バリアフリー未対応の歩道 多摩川沿いの環境・景観の活用も課題

(2)京急川崎駅周辺地区における基本方針と目指すべき都市像

①京急川崎駅周辺地区のまちづくり基本方針

「川崎駅周辺総合整備計画」における5つの基本方針と京急川崎駅周辺地区に求められる取組等を踏まえ、持続可能で活気にあふれたまちづくりを推進するため、京急川崎駅周辺地区の「まちづくり基本方針」を次のように定めました。

「川崎駅周辺総合整備計画」における
5つの基本方針



②京急川崎駅周辺地区の目指すべき都市像

京急川崎駅を中心とした「核」と周辺市街地との調和を図る「ゾーン」を形成し、民間活力によるまちづくりを誘導するとともに、「核」や「ゾーン」との連携を図る「軸」造りを民間と行政が連携して効果的に進めることで、新たな魅力や価値を創出し魅力ある都市づくりを目指します。

～京急川崎駅を中心とした「核」と周辺市街地との調和を図る「ゾーン」の形成～

にぎわい・交流核… 国内外の人やモノの活発な交流を創出し、川崎の玄関口にふさわしい賑わいのある広域交流拠点の形成や新たなビジネス活動拠点の形成を図ります。

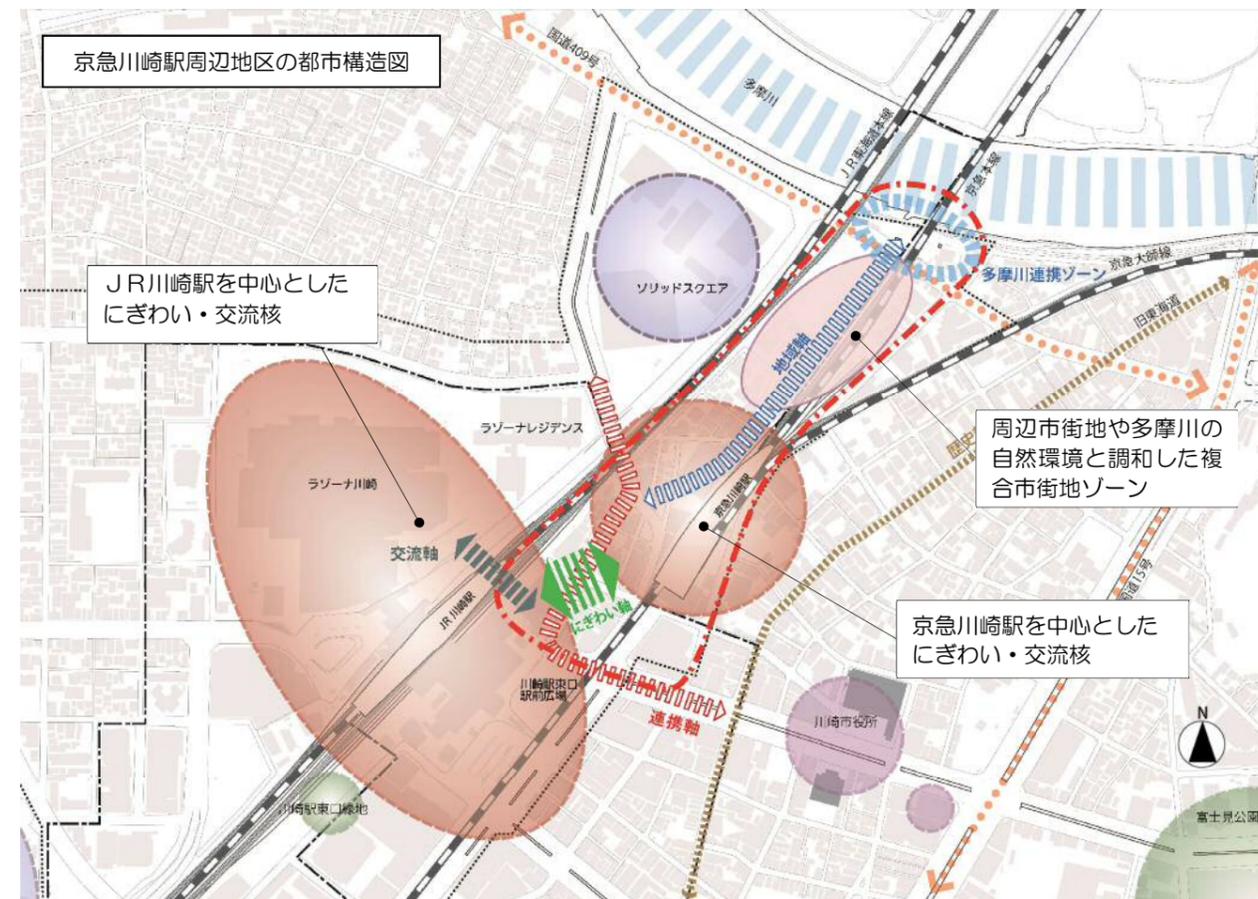
複合市街地ゾーン… 川崎駅周辺にある商業・業務機能や市内にある企業・研究施設など既存ストックと連携・調和した国内外の人やモノが集い交流できる機能の導入や多摩川の自然環境と調和した複合空間の形成を誘導します。

～JR川崎駅-京急川崎駅周辺地区の賑わいを結ぶ「軸」の創出～

連携軸… 広域拠点としての都市活動を支え東西市街地の連携を円滑に行う京急川崎駅周辺地区の骨格となる軸

地域軸… 複合市街地ゾーンの骨格を形成し、川崎の玄関口であるにぎわい・交流核や多摩川との連携を誘導する軸

にぎわい軸… 様々な交通機関への乗換えや、周辺に集積する商業・業務との連携を図り賑わいの骨格となる軸



京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針【概要版】

(3)土地利用の考え方

京急川崎駅周辺地区に導入すべき都市機能

川崎の玄関口にふさわしい高次都市機能の充実

- 羽田空港への近接性を活かし、国内外から人々が集まり活動する広域拠点として商業・業務機能を主体とした高次都市機能の充実
- 川崎の玄関口にふさわしい景観の形成や土地利用の高度化

グローバル企業の活動拠点機能の充実

- 殿町国際戦略拠点などの市内に集積した企業・研究施設と連携するグローバル企業の活動拠点の形成
- ビジネス活動をサポートする貸会議室などの施設の充実や人材育成のための教育施設等の誘致
- 企業の成長や起業をサポートするインキュベーション産業の醸造や施設の充実

滞在機能や日常生活を支える機能の充実

- 誰もが安心して利用できる中長期型の滞在施設や外国人対応の高規格住宅などの充実
- 多様なニーズや言語に対応できる教育、医療、商業などの生活支援の充実
- 国内外の観光客などのニーズにマッチしたホテルや商業、飲食店などの誘致

多様な人々への情報発信機能

- 広域交通結節点に相応しい多様なニーズや言語に対応した情報発信機能の充実
- 歴史的な資産を活かしたまちづくりへの取組
- 災害情報や避難誘導など緊急時における来街者への情報発信機能の充実

(4)都市基盤の考え方

誰もが歩きやすく利用しやすい都市基盤の整備

歩行環境の充実による交流拠点形成

- 民間再開発事業の進捗にあわせた既存歩行者専用道路の充実
- 駅間の乗り換え利便性向上や時間短縮への取組
- 川崎駅北口自由通路の整備による東西市街地の回遊性の向上
- 必要な機能に絞った交通結節機能の充実
- 歩道のバリアフリー化や多言語サイン計画の充実による快適性の向上

交通環境の整備推進

- 自転車通行環境の向上と駐輪場の効果的な設置の誘導
- 荷さばき対策基本計画に沿った荷さばき施設の設置誘導

災害時における防災関連施設の整備

災害に強いまちづくり

- 老朽建物の更新を契機とし、震災・水害などを考慮した避難経路の確保

災害時の帰宅困難者対策

- 民間再開発事業等と連携し、災害時における帰宅困難者のための一時滞在施設等の確保

地球環境に配慮した潤いある都市環境の形成

良好な市街地景観の形成

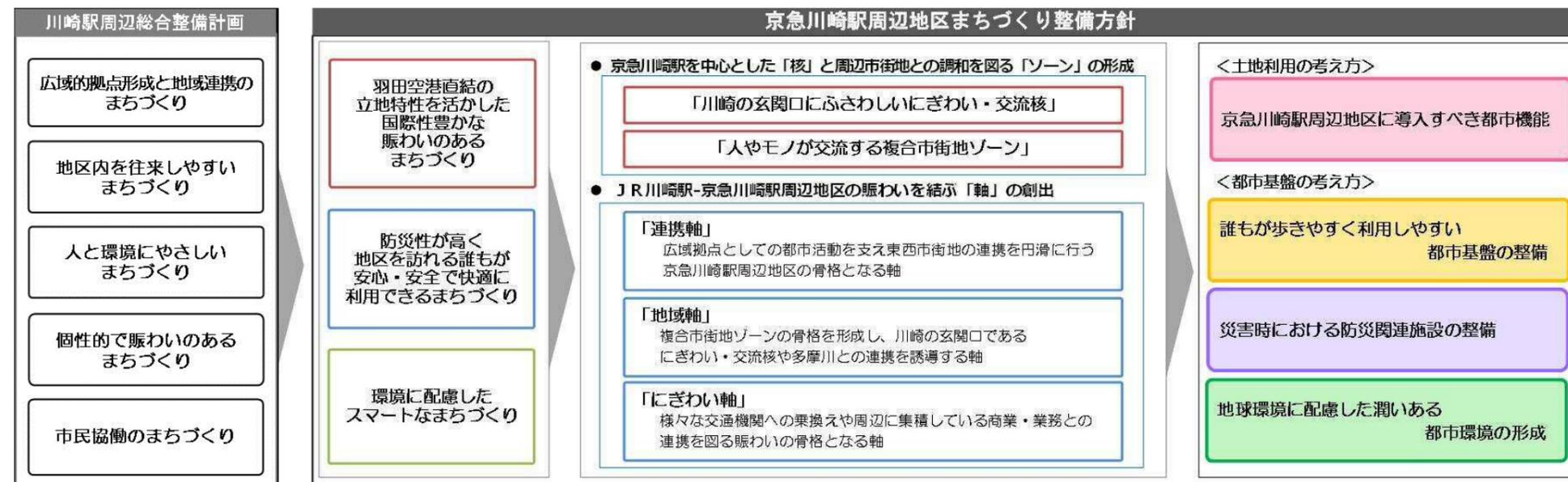
- 民間事業と高規格堤防整備事業の一体的な整備や多摩川沿いの市有地の活用などによる、潤いのある良好な市街地環境の形成

環境へ配慮したまちづくり

- 市民の利便性・快適性の向上、安全・安心の確保を目指したスマートコミュニティ構築に向けた誘導

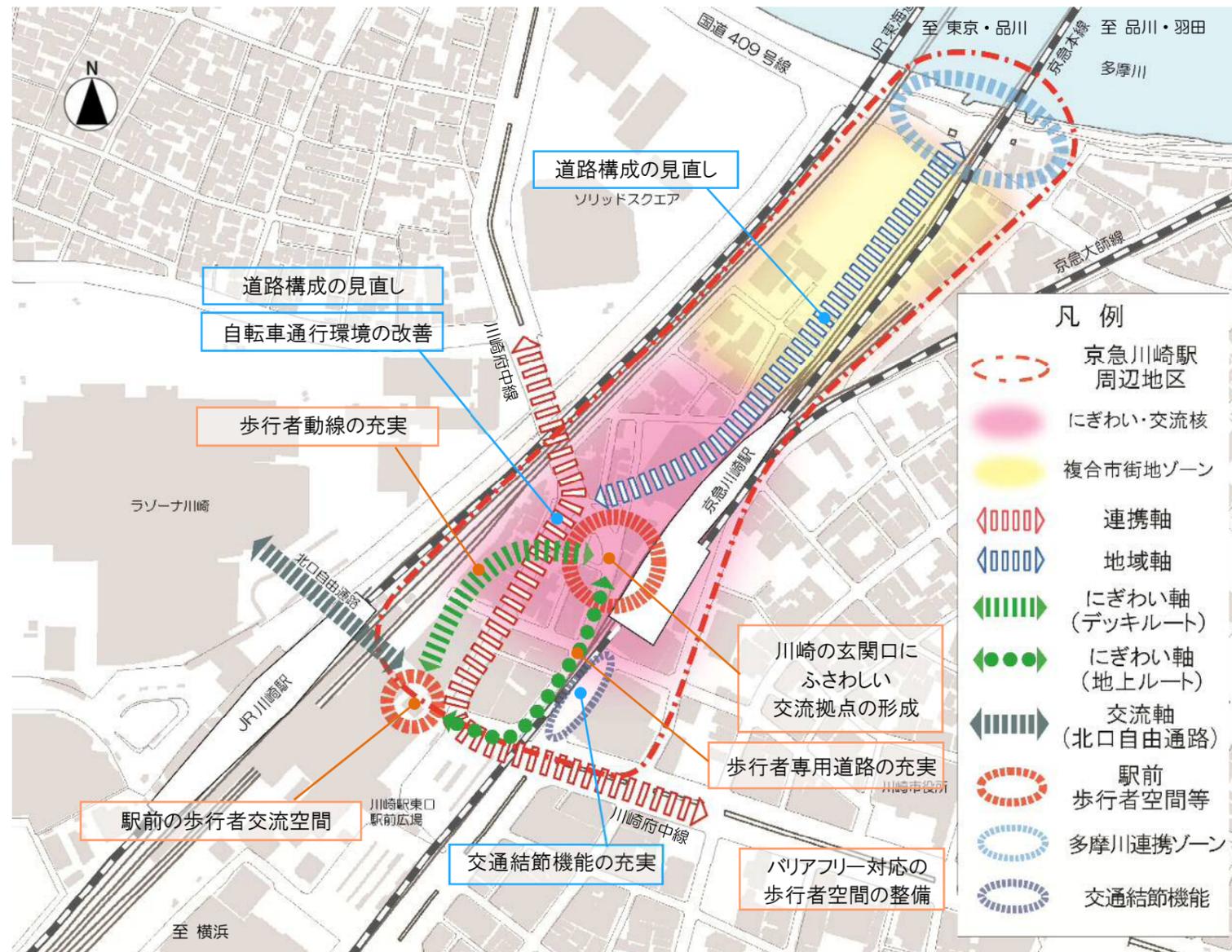
〈京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針の体系図〉

「京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針」は、川崎駅周辺総合整備計画の基本方針を踏まえ3つの基本方針を掲げ、下図に示すような体系に基づき整備誘導を図ります。



京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針【概要版】

＜まちづくりの概念図1:ゾーニング図＞



＜区域の考え方＞

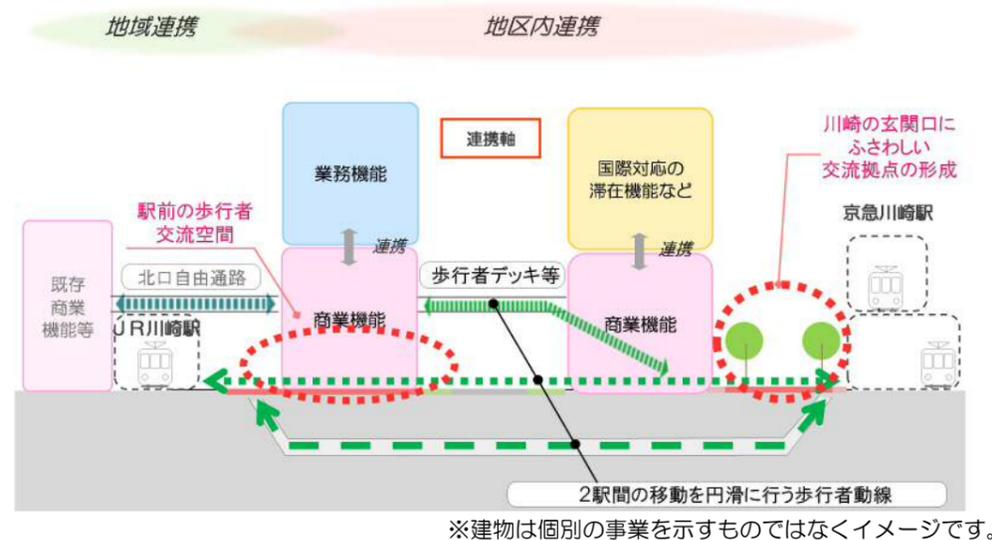
にぎわい・交流核 ～高度利用による広域拠点形成～

- 広域拠点にふさわしい商業・業務機能を主体とした高度で多様な都市機能の集積を促進します。
- 土地の高度利用を誘導し川崎の玄関口にふさわしい都市的な景観形成を誘導します。
- 殿町国際戦略拠点など市内に集積している企業や研究施設などと連携したグローバル企業の活動拠点の形成を促進します。
- 民間再開発事業に併せ、都市基盤の再編整備による広域交通結節機能の充実や乗換え利便性の向上を図ります。

複合市街地ゾーン ～土地利用転換の計画的誘導～

- 人やモノが集い・交流できる機能、居住機能、生活サポート機能を導入することで、新たな情報・文化交流の創出とアメニティの向上を促進します。
- 民間の土地利用転換時期に合わせ、多摩川の自然環境と調和した複合空間の形成を図ります。

＜まちづくりの概念図2:断面空間構成の考え方＞



＜整備スケジュール＞

民間再開発事業の誘導を図り、民間再開発事業の推進にあわせた都市基盤の整備に取り組みます。

